

解答

- 一
1 A エ B ウ C ア D イ
2 体自身がもっと自分を試したがっている
(一) こんなにも (S) てしまつた (から) (2) ウ
3 サッカー部に優太が戻つてきたらライバルが増えるから。
(一) いま戻つて (2) イ

- 6 I 高校に行つてサッカーをふたたび始める
II 希望 III 未来

- 二
1 A イ B ア C エ D ウ

相手の目を見て話し、相手の目を見ながら話を聞くのが礼儀ということ。

- 2 (一) I 相手に対する敬意 II 無礼な仕草 (2) エ
3 (一) だんだん寂しい気持になる (2) こちらが話 (S) に動かす人
4 視線の休憩 (S) けはしない (こと)
5 工 6 エ

- 三
1 どくさい 2 ほうぼく 3 じいつ 4 いどじいろ (きよしょ) 5 きせ (む)

- 四
1 陛下 2 条例 3 統一 4 吸 (い) 5 富 (んだ)

解説

一
2 線部一では、真剣に走るのは二年ぶりで、体がよろこんでいる様子を表しています。そこで、その後にある「最初は軽く」で始まる段落に、「体自身がもっと自分を試したがっている」という記述が抜きだせます。
4 線部3の前にある「ぼくがサッカー部を退部するときに、ライバルが減るからとやけにはしゃいでいた」という記述から、サッカー部に優太が戻つてきたらライバルが増えるので、ふてくされたことが考えられます。

二
2 線部一の前で、欧米の教育について述べています。日本人と比べると多少違い、相手の目を見て話し、相手の目を見ながら話を聞くのが礼儀ということを教える教育であることを説明しています。
6 本文の後半にある「でも、視線を避ける」から始まる段落に着目すると、選択肢工が本文の内容と一致するところがわかります。